



台風に対する備え

防災課

1. 台風による被害

日本には毎年7月から10月を中心に台風が上陸し、土砂災害や河川の氾濫等により、大きな被害が発生しています。

〔大雨による被害〕

台風やその周辺部では、激しい雨が長時間にわたって降り続くことがあります。また、台風が日本から遠く離れた南の海上にあっても、日本付近に前線が停滞している場合、暖かく湿った空気が流れ込み大雨となる場合があります。このため、がけ崩れや土石流、地すべり、河川の氾濫が発生し、私たちの生命が脅かされることがあります。



令和元年東日本台風（台風第19号）

では、関東地方や東北地方の太平洋側を中心に、土砂災害や河川の氾濫等により、100名を超える死者・行方不明者が発生する等、甚大な被害が生じました。



令和元年東日本台風による浸水被害 宮城県丸森町
(山形県消防防災航空隊提供)

〔暴風による被害〕

台風の周りでは強い風が吹いています。平均風速15～20m/sの風であっても、歩行者が転倒したりすることがあります。さらに風が強くなると、物が飛んできたり、建物が損壊したりするようになり、平均風速40m/sを超えると住家が倒壊することもあります。

令和元年房総半島台風(台風第15号)では、千葉市で最大瞬間風速57.5m/sを観測するなど各地で暴風となり、関東地方を中心に住宅約74,000戸が損壊するといった被害が発生しました。



また、倒木や飛来物により、多くの電柱が折損する等の被害が発生し、大規模な停電が発生しました。

台風の周辺では、竜巻が発生することもあり、家屋の

倒壊や車両の転倒、飛来物の衝突等により被害をもたらすことがあります。

〔高潮・高波による被害〕

台風が接近して気圧が低くなると海面が持ち上げられます。そこにさらに強い風が吹き寄せて、大きな高潮・高波災害が発生することがあります。平成30年台風第21号では、大阪湾を中心に過去最高潮位を超える値を観測する等、顕著な高潮になり、関西国際空港の滑走路が浸水する等、大きな被害が発生しました。



2. 台風への対応

(1) 事前の備え

家庭においては、台風に向けて、次のような準備を十分におこなってください。

- ・窓はしっかりと鍵をかけ、必要に応じて補強する。
- ・風で飛ばされそうな物は飛ばないように固定し、格納できるものは家の中へ格納する。
- ・避難生活や停電に備え、食料、簡易トイレ、マスク、ハンディライト、ラジオ等を入れた非常用持ち出し袋を用意する。

そして、一人ひとりが、どのような避難行動をとれば良いか、あらかじめ理解しておくことが大切です。日頃からハザードマップを確認するとともに、テレビ、メール等の様々な手段を通じて伝達される情報をどの手段から入手するか、入手した後、自らがどのような避難行動をとればよいかなど、災害時にとるべき行動を判断するための「避難行動判定フロー」^(注1)をあらかじめ確認しておきましょう。加えて、いち早く身の安全を確保できるよう、災害の種別ごとに指定されている指定緊急避難場所の位置や、そこまでの避難経路について調べておくことも重要となります。また、安全な親戚・知人宅やホテル・旅館なども避難先になり得ますので、普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

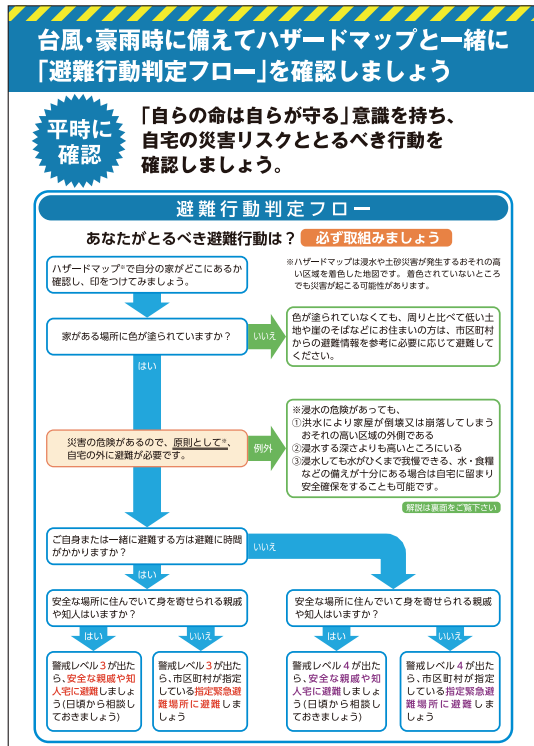
(2) 迅速な避難

住民がとるべき行動や避難情報は5段階の警戒レベルに区分して提供されており、市町村から警戒レベル4の避難指示や警戒レベル3の高齢者等避難が発令された際には速やかに避難行動をとる必要があります。強い降雨を伴う台風が、立退き避難が困難となる暴風を伴い接近・通過することが予想される場合には、気象庁などから出る雨や河川水位の防災気象情報を参考としながら、避難指示等が発令されていなくても自ら避難の判断をすることが非常に重要となります。^(注2)



(注1) 図：避難行動判定フロー

(掲載先：https://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/index.html)



避難行動判定フローの参考情報

ハザードマップの見方 必ず確認してください

ハザードマップの色や凡例は自治体によって異なる場合があります。

ハザードマップの見方 もっと詳しく知りたい人向け

次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

- ※1 豪雨等浸水想定区域に入っていないか
- ※2 浸水深より屋高が高いか
- ※3 水はびくまで履き足るか、水・食糧などの備えは十分か

※1 豪雨等浸水想定区域や、※2 浸水継続時間はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。なお、異なるハザードマップには記載がありません。

※3 緊急時に身を寄せる避難先は、市町村が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

※「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。(小中学校、公民館など)

※災害が落ち着いた後に、自宅が被災し、帰宅できない場合は、しばらく避難生活を送るため、「指定避難所」に行きましょう。

わからないことがありましたらお住まいの市町村にお問い合わせください。
 (検索) 内閣府防災ホームページ | 令和元年台風19号時による避難に関するワーキンググループ
<http://www.bousai.go.jp/fusugai/typhoonworking/index.html>

(注2) 警戒レベルと住民が自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報(避難情報等)	住民が自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報				
				警戒レベル相当情報	洪水等に関する情報	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	高潮に関する情報
5	災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保!	緊急安全確保(必死覚悟を要するものを含む)	5相当 氾濫発生情報(危険度分布: 黒(2段階))	大雨特別警戒(浸水等) ^{※2} 危険度分布: 黒(2段階)	大雨特別警戒(土砂災害) 危険度分布: 黒(2段階)	高潮特別警戒 ^{※4}	
<p><警戒レベル4までに必ず避難!></p>				4相当 氾濫危険情報(危険度分布: 紫(1段階))	大雨特別警戒(浸水等) 危険度分布: 紫(1段階)	土砂災害警戒情報(危険度分布: 紫(1段階))	高潮特別警戒 ^{※4}	
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 [※]	高齢者等避難	3相当 氾濫警戒情報(危険度分布: 赤(1段階))	洪水警戒(危険度分布: 赤(1段階))	大雨警戒(土砂災害) 危険度分布: 赤(1段階)	高潮警戒に切り替える可能性に言及する高潮注意報	
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認する	洪水、大雨、高潮注意報	2相当 氾濫注意情報(危険度分布: 黄(1段階))	注意(危険度分布: 黄(1段階))	注意(危険度分布: 黄(1段階))		
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1相当				

※高齢者等以外の人も、必要に応じ、普段の行動を見合わせて、避難の準備をしたり、自主的に避難

上掲赤字：危険性が高まるなど、特定の条件となった際に発表される情報(市町村に対し関係機関からアラート型で提供される情報)
 下掲赤字：常時、地図上での色表示などにより状況が提供されている情報(市町村が自ら確認する必要がある情報)

※1 HP上に公表している国管理河川の洪水の危険度分布(体感リスクライン)では、観測水位等から詳細(左右岸200m圏)の現況水位を推定し、その地点の堤防等の高さと比較することで警戒レベル2~6相当の危険度を表示。
 ※2 水位情報がないような中小河川における氾濫は、外水氾濫、内水氾濫のいずれによっても区別がつかない場合が多いため、これらをもとめて大雨特別警戒(浸水等)の対象としている。
 ※3 水位周知装置において都道府県知事から発表される情報。台風に伴う高潮の潮位上昇は瞬間的に急激に起こるため、潮位が上昇してから行動しては安全に立退き避難できないおそれがある。
 ※4 高潮警戒は、高潮により命・危険が及ぶのを防ぐため発表される情報。暴風が吹き始めると屋外の立退き避難が困難になるタイミングも考慮して発表されるため、また、高潮特別警戒は、数1年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合に高潮警戒を高潮特別警戒として発表するため、両方を警戒レベル4相当情報に位置付けている。
 注) 本資料では、気象庁が提供する「大雨警戒(土砂災害)の危険度分布」と都道府県が提供する「土砂災害危険度情報」をまとめて、「土砂災害の危険度分布」と呼ぶ。

問合わせ先
 消防庁国民保護・防災部防災課
 TEL: 03-5253-7525